NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞記事を読み、わが国の雇用について考えよう

2．学校名

愛媛県松山市立南中学校

3．実践者名（代表者名）

大澤　政志

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科･公民的分野

6．単元（本時の学習課題）名

私たちの生活と経済(雇用と労働)

7．目標（狙い）

･我が国の抱える雇用に関する問題について、現状を知る。
･雇用環境の厳しさを自分のこととしてとらえ、将来に備え前向きに努力する姿勢を身につける。

8．評価の視点

･雇用に関する新聞記事を読み、自分のこととしてとらえ、将来について考えられているか。
･小集団活動において、自分の意見を積極的に発言できているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

85時間中7時間(本時は7時間中の最終時)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

1.4人グループに4種類のワークシートを配り、生徒はそのうちの関心のあるものを一つ選び、4人で分担してワークシートの「雇用に関するグラフ」と「雇用に関する新聞記事」を見て、わかることを考える。
　ワークシートのグラフと新聞記事見出し
(1)「わが国の完全失業率の推移」と「生存権と生活保護」
(2)「フリーターと正社員の平均年収の差」と「高校就職内定率55.2%」
(3)「性別･年齢別労働力率」と「県育児休暇に関する相談件数が急増」
(4)「大卒生のフリーター化率」と「大卒予定者の就職内定率最低」
2.同じワークシートに取り組んだ4人で集まり、意見交換をして、同じ記事･グラフから他の人はどんなことを考えたのかを知る。
3.最初のグループに戻り、意見交換をして自分が知った事象の他にも雇用に関する問題があることを知る。
4.教師の説明を聞く。(フリーターと正社員の生涯賃金の格差グラフを提示する。)
5.授業の感想を書く。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

･しっかり勉強して就職に有利な資格を身につけたいと思った。
･将来自分がつきたい職業に就けるのか不安になった。
･職業に就くことに対する意識が変わった。

12．成果と課題

　就職や雇用に関する新聞記事を活用することで、多くの生徒が記事に関心を持ち、社会的事象を自分と関係のあることとしてとらえるようになった。また、小集団での練り合い･高め合いの機会を多く設定することで、子どもたちの多くが、社会的な見方や考え方を広げることができた。しかし、取り扱う新聞記事が内定率や就職率の低さや、離職率の高さを伝えるものであったため、子どもたちの社会の見方が一面的になってしまった。また、小集団活動では、それまでの授業における本質的把握があいまいであったり、小集団活動における発問や支援が不十分であったりすると、深い活動になりにくい様子も見られた。